

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス てんとうむし				公表日	令和7年 11月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		玩具や設備の整頓をし、スペースの確保をしている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	4	出来るだけ死角ができないよう支援室の職員配置数に気を付けている。	2部屋ある支援室で職員を配置する為、職員数が足りず場の制御ができない場面がある。運行上職員数が少なく休みが取りづらい。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	絵カードや写真を提示し、目で見て何をするか分かりやすくしている。	死角が多い為、様子を把握しにく場面がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	子どもの特性に合わせた環境ができている部分もある。	壁紙や床等、劣化により補修しきれない場所があり、目立つ。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		パーテーションを使用し、レストスペースを確保している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	朝礼、夕礼時に目標と振り返りを行い、必要に応じて離し合いを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		H Pにアンケート結果を公表し、内容を皆で把握している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々の会話や朝礼、夕礼時に意見を出し合い、改善に繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	特記事項があった場合、第三者委員会へ上申、評価をしてもらっている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		年間研修計画に沿い、法人内部研修を実施。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		法人共通の支援プログラムを館内に提示している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		子どものニーズが見えにくい場合には保護者の方の話も加味し、個別支援計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		モニタリングを定期的に実施し、より良い支援になるため検討を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		モニタリング、アセスメントは全員が参加し、計画内容の共有をしている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の行動観察の記録をP C内に記録。モニタリングや5領域の確認表はフォーマットを使用している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		社会体験を通じた移行支援、地域連携を計画、設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員同士で話し合いをしながら決めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		行事等職員が順番で担当し、様々な活動が提供できるようにしている。		

供 應	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	おやつや食事の時間の他、行事等の活動時には集団活動として支援を行っている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼を行い、その日の活動内容を確認、共有している。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		夕礼時に意見を出し合い、共有に繋げている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		パソコンにて記録を行い、必要に応じた情報が見つけやすいようにしている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		個別支援計画に記載されている期間毎に行う他、子どもの状況に変化がある時に行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	1	創作活動や余暇活動の中に本人の選択や決定の機会を取り入れている。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		子どもの「やってみたい」を尊重し、選んだ事を経験してもらえるよう支援をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		自発管が主に参加、必要に応じ指導員も参加している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		地域の病院と協力医療機関協定を結び、協力を得られる態勢を整えている。	地域の保育、教育等との連携体制がまだできておらず、協力できる機会を設けていきたい。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校への送迎時に児童の様子を聴き、情報共有を図っている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	相談支援専門員を通しながら情報を得られている。	情報共有が完全にできていない部分もあるため、相談支援専門員うを交えながら連携を進めていきたい。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		支援方法や得意な事等の情報を移行先の職員に情報として提供している。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	必要に応じ、助言を受ける機会を設けている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	4	2		子どもの特性上、安全面を考慮しており機会は少ない。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	自立支援協議会放ディ部会に所属し、連絡会等に参加している。	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡ノートの使用や送迎時に状況や情報共有をしている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援ブログ（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		家族の参加ができる研修情報を館内に提示している。	
・	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明をしているが変更点があった時にはその都度説明をしている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		連絡ノートや送迎時のやり取りの中で意向の確認を行っている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		計画の更新、変更の際には保護者へ説明をし、同意を得ている。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		日々の様子等の情報交換のツールとして連絡ノートを使用し、対応に繋げている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		年に1度だが保護者や兄弟を前招いた行事を開催し、交流の機会を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情解決責任者を中心く苦情について説明、対応をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		連絡ノートや公式LINEを用いて情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の記載された書類や知った情報は持ち出しや口外しないよう徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		写真やジェスチャー等伝わりやすいよう配慮し情報を伝達している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	地域の行事にこちらから出向き参加する事はある。	現在地域住民を招いた行事は行っていない為、今後開催を検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	年間計画に沿って防犯訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年間計画に沿って月に1度防災訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		ご家族と情報を共有し、その都度職員間での情報共有、対応に繋げている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者の方に聞き取り、情報共有をしている。現在食物アレルギーのある子の利用は無し。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	フローチャートを作成し、それに沿った行動が取れるよう研修、訓練に取り組んでいる。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	契約時にや必要に応じて各家族との緊急連絡先や緊急時の対応について確認、共有をしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットがあった際には皆でその時の状況の共有、対応について話し合いをしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		内部研修の他、外部の研修に参加してもらっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		法人共通での身体拘束に関する同意書を使用。	